

決算補足説明資料

2022年度 第1四半期 業績概要

注意事項

- **当社は2022年度より地域別の情報（売上収益,受注）の算出根拠を、従来の仕向地（お客さまの所在地）別から当社グループ各社の所在地別に変更いたしました。これにより、2021年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。（P.17参照）**
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2022年3月1日～2022年5月31日)

1. 2022年度 第1四半期 連結業績

- 2022年度第1四半期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2022年度1Qの取り組み

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

- 2022年度 通期 見通し

3. 参考資料

- 仕向先から所在地への変更による
過年度の組替表示（売上収益,受注）
- 設備投資・研究開発費,為替レート,感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ A Cサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ PMモータ など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
- ・ 大型風力発電用電機品 など



その他

- ・ 物流サービス

など

1. 2022年度 第1四半期 連結業績

2022年度 第1四半期 実績

- ・ 中国ではロックダウン影響を受けたものの、その他の地域は堅調に推移し、売上収益は前年同期比で増加
- ・ 営業利益は原材料費の高騰影響を受けた一方、為替の円安進行などもあり増益

	2022年度	2021年度	前 年 同 期 比	
	1Q 実績	1Q 実績	増減額	増減率
売上収益	1,203億円	1,190億円	+13億円	+1.1%
営業利益	140億円	129億円	+10億円	+7.8%
税引前利益	152億円	135億円	+16億円	+12.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	104億円	101億円	+3億円	+2.8%

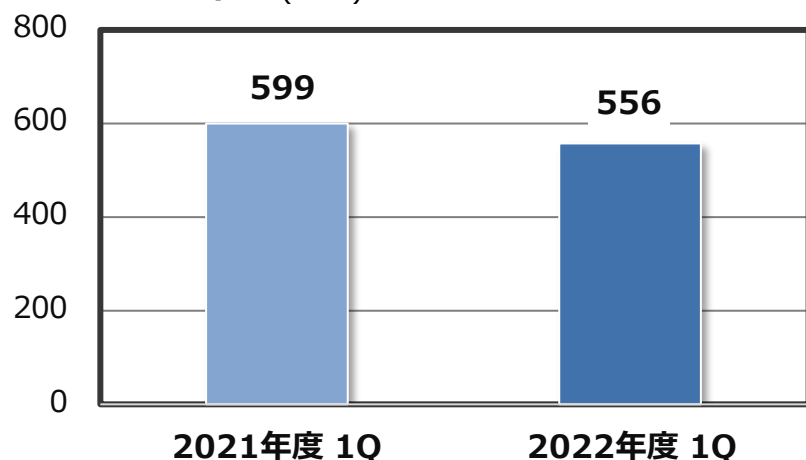
2022年度 第1四半期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールは、中国でのロックダウン影響を受け減収減益
- ・ ロボットは自動車市場におけるEV化やリチウムイオン電池関連などの需要により増収増益

	2022年度 1Q		2021年度 1Q		前年 同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売 上 収 益	1,203		1,190		+13	+1.1%
モーションコントロール	556		599		▲43	▲7.2%
ロボット	445		407		+39	+9.5%
システムエンジニアリング	143		137		+6	+4.3%
その他	58		47		+12	+24.7%
営 業 利 益	140	11.6%	129	10.9%	+10	+7.8%
モーションコントロール	69	12.3%	110	18.4%	▲42	▲37.9%
ロボット	33	7.5%	21	5.1%	+13	+61.9%
システムエンジニアリング	10	7.3%	6	4.4%	+4	+72.9%
その他	1	1.4%	1	3.0%	▲1	▲41.2%
消去または全社	26	-	▲9	-	+35	-

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



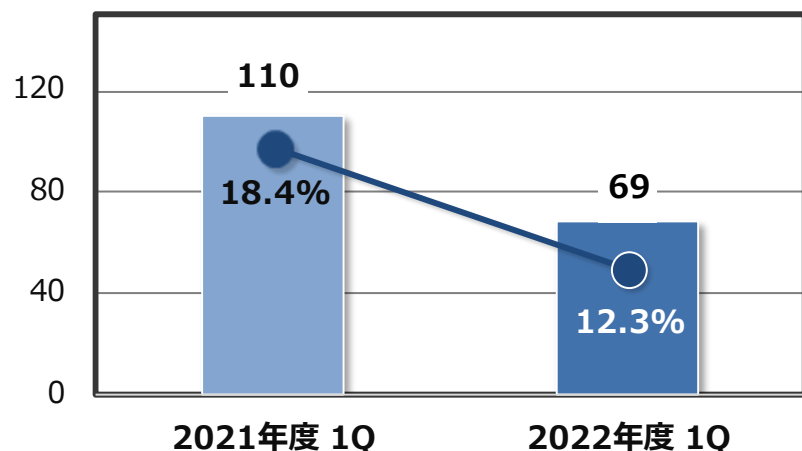
【売上収益】

- ACサーボは、日・米・韓などで半導体・電子部品向け需要が高い水準で推移。中国ではEV化やリチウム電池・太陽光発電用パナなどの成長市場で需要は堅調も、ロックダウンによる物流の混乱などにより、売上収益は伸び悩む
- インバータは、米国でオイル・ガス関連の設備投資が増加も中国のロックダウン影響を大きく受け、売上は低迷

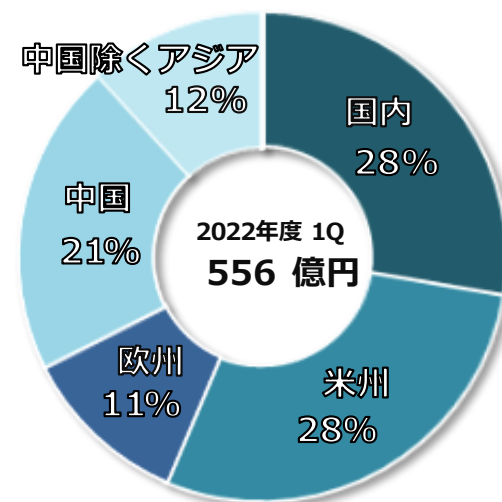
【営業利益】

- 中国での売上減少や、原材料費の値上がりの影響などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)

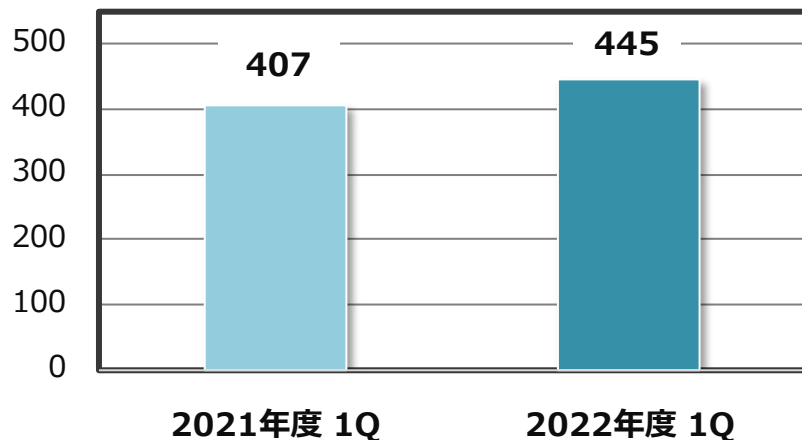


所在地別売上収益構成比



主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



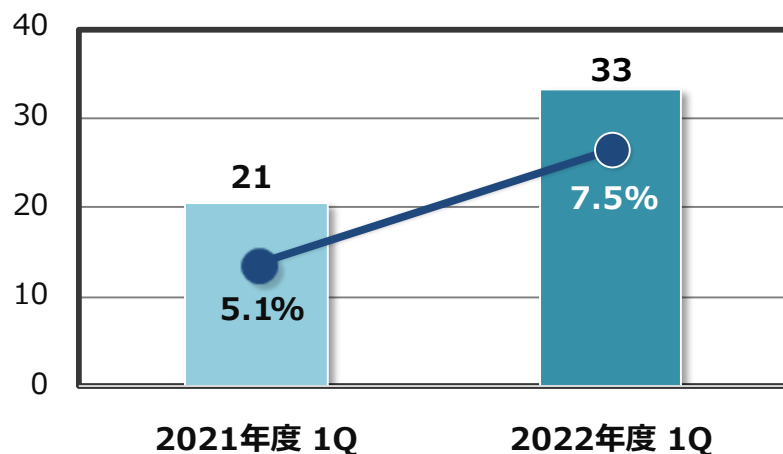
【売上収益】

- 自動車市場ではEV化がグローバルで加速し、リチウムイオン電池などの設備投資を拡大する動きが継続
- 一般産業分野にて人協働ロボット等の活用を通じた生産の高度化・自動化を目的とした投資が行われたほか、半導体・電子部品市場の需要拡大を背景に半導体ロボットも好調
- 塗装・シーリングロボットのシステムメーカーであるドウリム安川を新規連結した影響もあり、売上収益は拡大

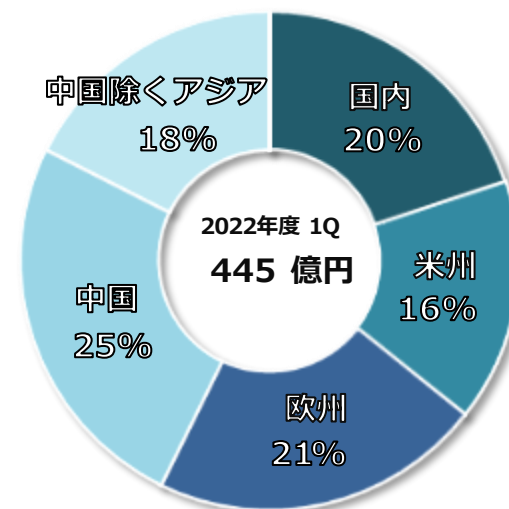
【営業利益】

- 売上増加や操業度の改善などにより営業利益は増加

営業利益(億円)・営業利益率(%)

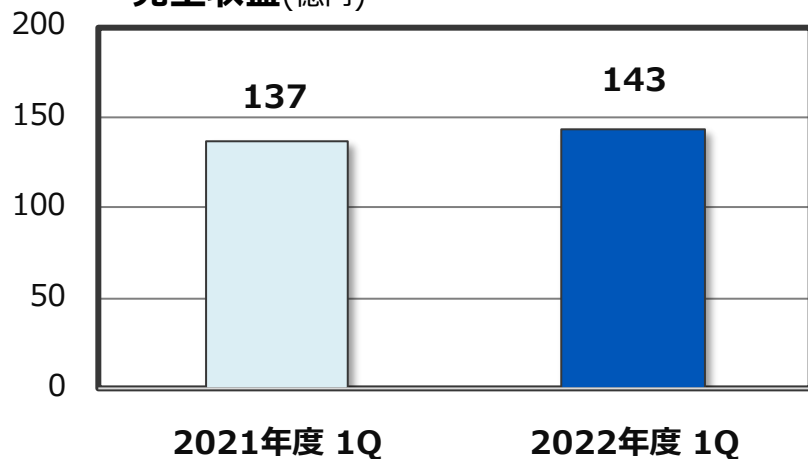


所在地別売上収益構成比



主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



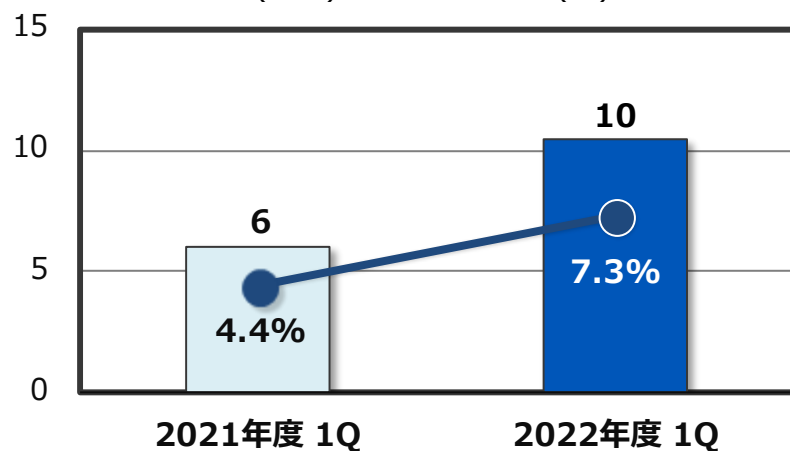
【売上収益】

- ・ アジアなどの港湾クレーンやリチウムイオン電池の生産設備向けの需要が高い水準で推移
- ・ 大型風力発電用電機品および太陽光発電用パワーコンディショナは、案件の着実な獲得により堅調

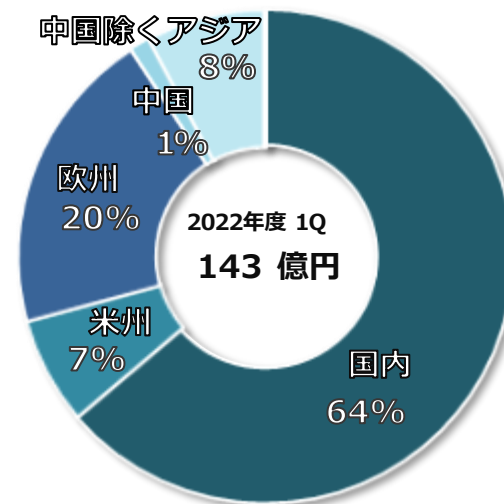
【営業利益】

- ・ 構造改革の効果や経費抑制の継続などにより増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)

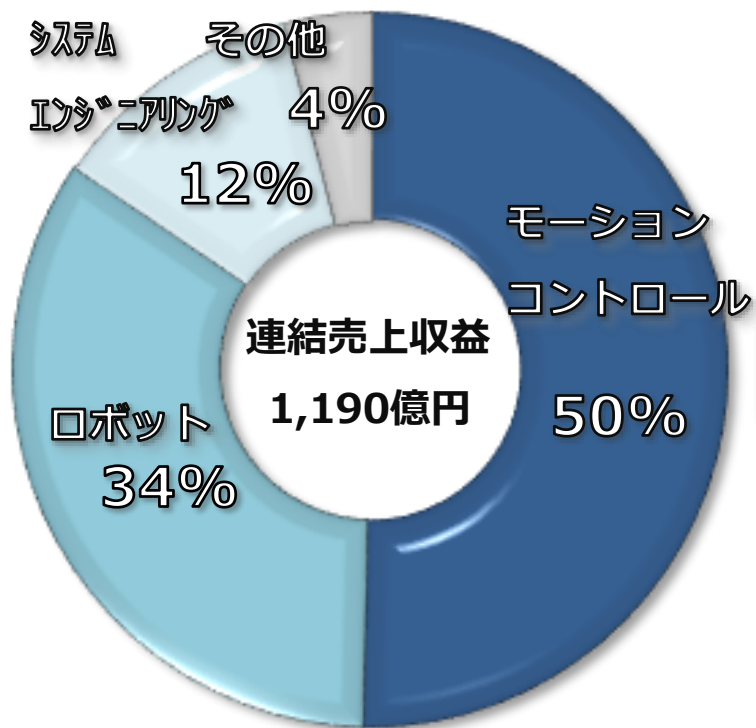


所在地別売上収益構成比

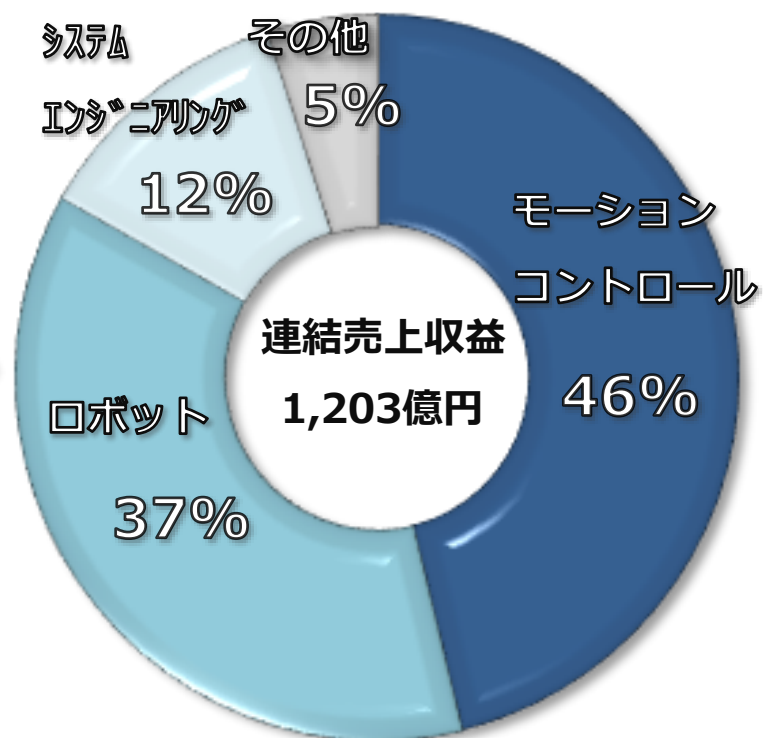


事業セグメント別売上収益構成比

2021年度 1Q



2022年度 1Q



所在地別売上収益（2021年度1Q → 2022年度1Q）

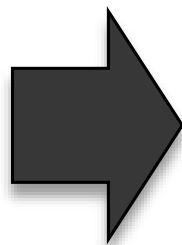
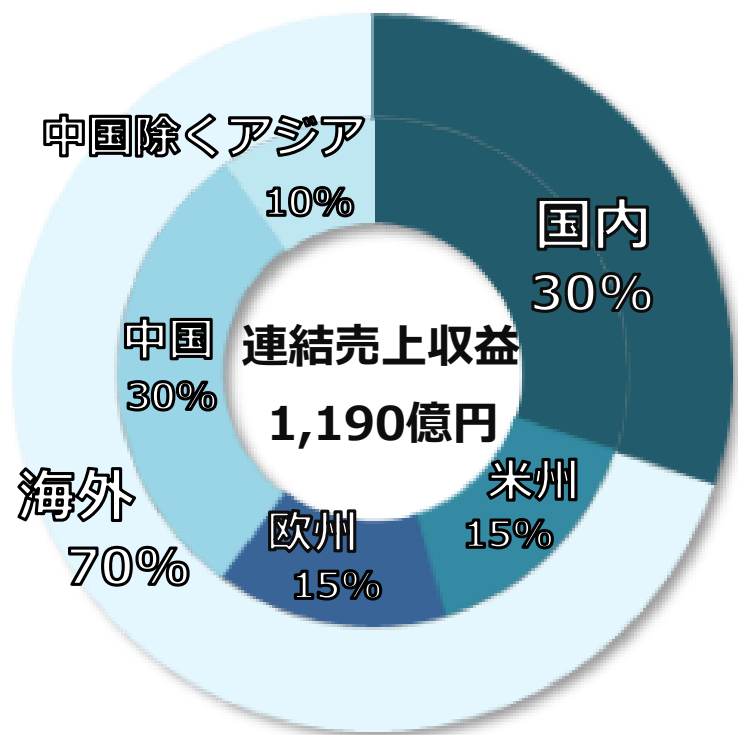
・米州,中国除くアジアなどが大幅に伸長し、中国のロックダウン影響をカバー

(単位：億円)	2022年度 1Q 実績	2021年度 1Q 実績	前 年 同 期 比	
			増減額	増減率
売上収益	1,203	1,190	+13	+1.1%
国内	377	358	+19	+5.4%
海外	826	832	▲6	▲0.7%
米州	240	184	+56	+30.6%
欧州	187	175	+12	+6.8%
中国	244	357	▲113	▲31.6%
中国除くアジア	154	116	+39	+33.3%

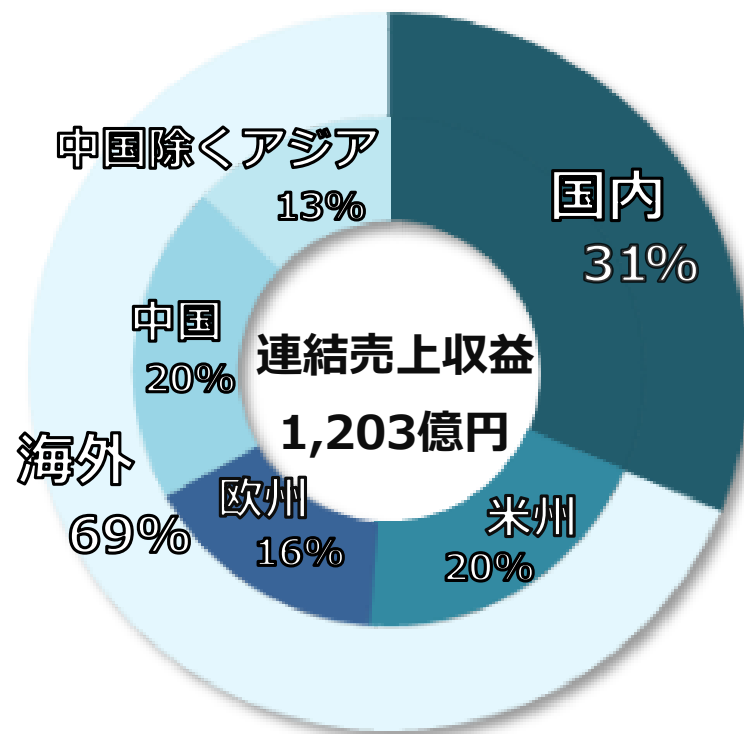
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別売上収益構成比

2021年度 1Q



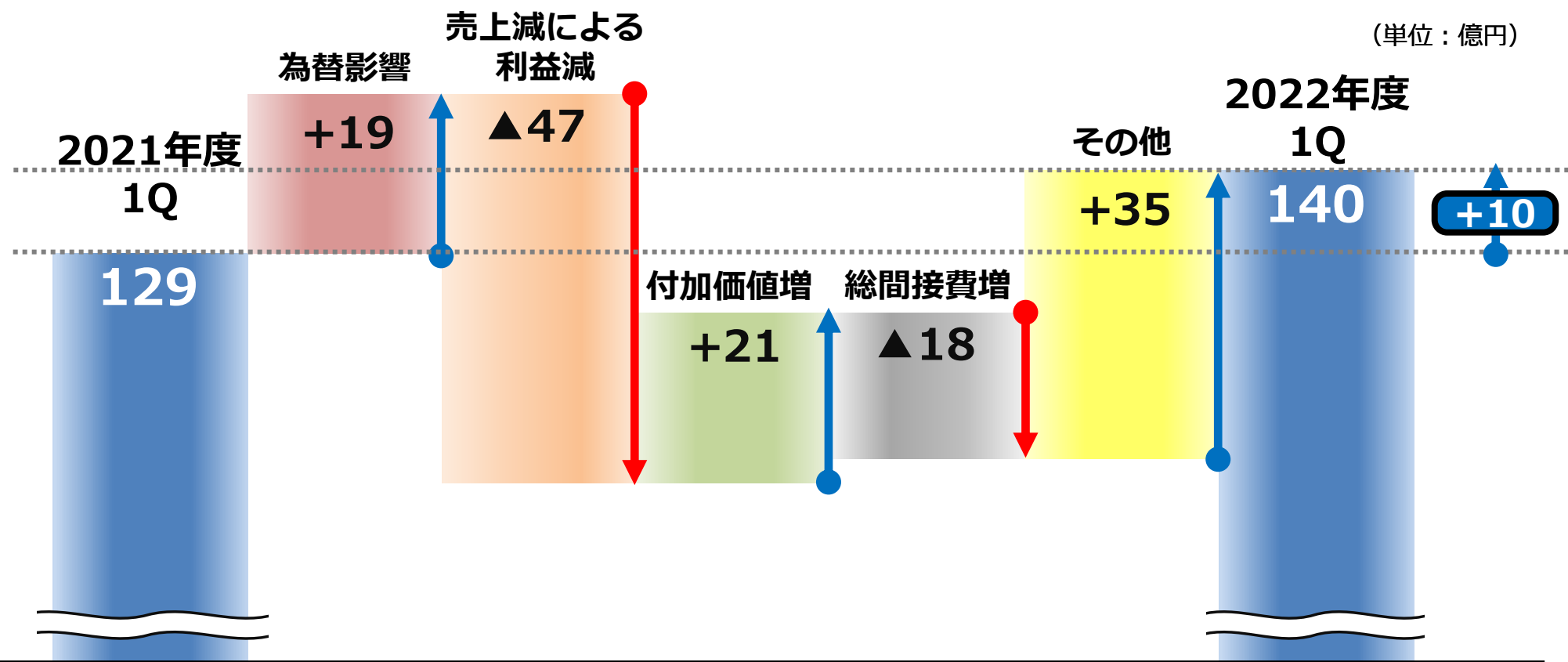
2022年度 1Q



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

営業利益増減要因分析（2021年度1Q → 2022年度1Q）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 10	▲ 45	▲ 3	▲ 4	+ 0
ロボット	+ 9	▲ 5	+ 21	▲ 12	▲ 0
システムエンジニアリング	+ 0	+ 1	+ 0	+ 3	▲ 0
その他	+ 0	+ 2	+ 3	▲ 5	+ 35

2022年度1Qの取り組み

➤ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

➔ 開発力の強化

- ・採用部品の長期安定調達を確保するための開発・設計プロセスの強化

➔ 生産力の強化

- ・中国国内の生産拠点で使用する実装基板品や電子ユニット品など主要部品の生産拠点「安川（常州）機電一体化系統有限公司」における量産開始（2022年6月）
- ・グローバルでの部品調達力強化に向けた推進体制の構築

➔ 販売力の強化

- ・展示会等を活用したお客さまへのi³-Mechatronicsの理解深耕とコンセプトに基づく提案実施
- ・ソリューション販売強化に向けた国内販売子会社の役割明確化と一体運営の開始

➤ デジタル経営の推進

- ・お客さまへの提供価値を高めるための製品ライフサイクル(開発・生産・販売・サービス)全体を通じた取り組みの開始 (YDX^{*1}-II)

➤ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・2050年カーボンニュートラル達成に向け、スコープ1 + 2^{*2}の削減目標をより高い目標に改定し、スコープ3^{*3}の削減目標を新たに追加
- ・従業員に対するグループ経営理念の浸透活動強化



安川（常州）機電一体化系統有限公司

*1 YDX: YASKAWA Digital Transformationの略。
YDX-Iでは、経営資源の可視化・一元化とその最適配置を目指した活動を実施
*2 スコープ1：主に燃料使用に伴う排出（自社の直接排出）
スコープ2：購入した電力・熱の使用に伴う排出（電力会社等による自社の間接排出）
*3 スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

2022年度 通期 見通し

・ 受注が好調に推移しているため、通期決算発表時(2022/4/8発表)の通期見通しを据え置く

	2022年度	2021年度	前 年 同 期 比	
	見通し	実績	増減額	増減率
売 上 収 益	5,250億円	4,791億円	+459億円	+9.6%
営 業 利 益	720億円	529億円	+191億円	+36.2%
税 引 前 利 益	740億円	554億円	+186億円	+33.6%
親会社の所有者に帰属する 当 期 利 益	525億円	384億円	+141億円	+36.9%

3. 参考資料

仕向先から所在地への変更による過年度の組替表示（売上収益・受注, 2021年度実績）

2021年度（仕向先から所在地への変更後）								変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
売上収益	1,190	1,209	2,399	1,175	1,217	2,392	4,791	-
国内	358	378	735	364	402	766	1,502	+20
海外	832	831	1,664	810	815	1,625	3,289	▲20
米州	184	206	390	206	211	417	807	+54
欧州	175	187	362	194	182	376	737	+20
中国	357	318	676	288	297	585	1,261	▲33
中国除くアジア	116	120	236	122	126	248	484	▲57
その他	0	0	0	0	0	0	0	▲5

2021年度（仕向先から所在地への変更後）								変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
受注	1,391	1,377	2,768	1,430	1,529	2,960	5,728	-
国内	388	440	828	506	487	993	1,821	+48
海外	1,003	937	1,940	925	1,042	1,967	3,907	▲48
米州	239	252	491	257	315	572	1,063	+93
欧州	230	220	450	229	253	482	932	+29
中国	395	336	731	299	322	621	1,352	▲72
中国除くアジア	139	130	268	140	152	292	560	▲98
その他	0	0	0	0	0	0	0	+0

設備投資・研究開発費, 為替レート, 感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位: 億円)

	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (計画)
設備投資額	227.9	241.8	290.0
減価償却費	160.9	174.8	180.0
研究開発投資	178.5	181.8	190.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位: 円)

	2020年度 (実績)			2021年度 (実績)			2022年度 (想定)		
	1Q	上期	通期	1Q	上期	通期	1Q (実績)	上期	通期
対 米ドル	107.6	107.2	106.0	109.0	109.5	111.5	124.2	122.1	121.0
対 ユーロ	117.9	120.4	122.8	130.7	130.8	130.4	134.3	133.6	133.3
対 元	15.21	15.23	15.55	16.79	16.92	17.33	19.12	19.06	19.03
対 ウォン	0.088	0.089	0.091	0.097	0.097	0.096	0.100	0.100	0.100

為替感応度

(単位: 億円)

	1%変動による影響額目安 (2022年度_通期 想定)	
	売上収益	営業利益
米ドル	9.5	2.5
ユーロ	8.0	2.1
元	13.3	4.6
ウォン	2.7	1.8

B/S 構造の推移

2022年2月28日時点

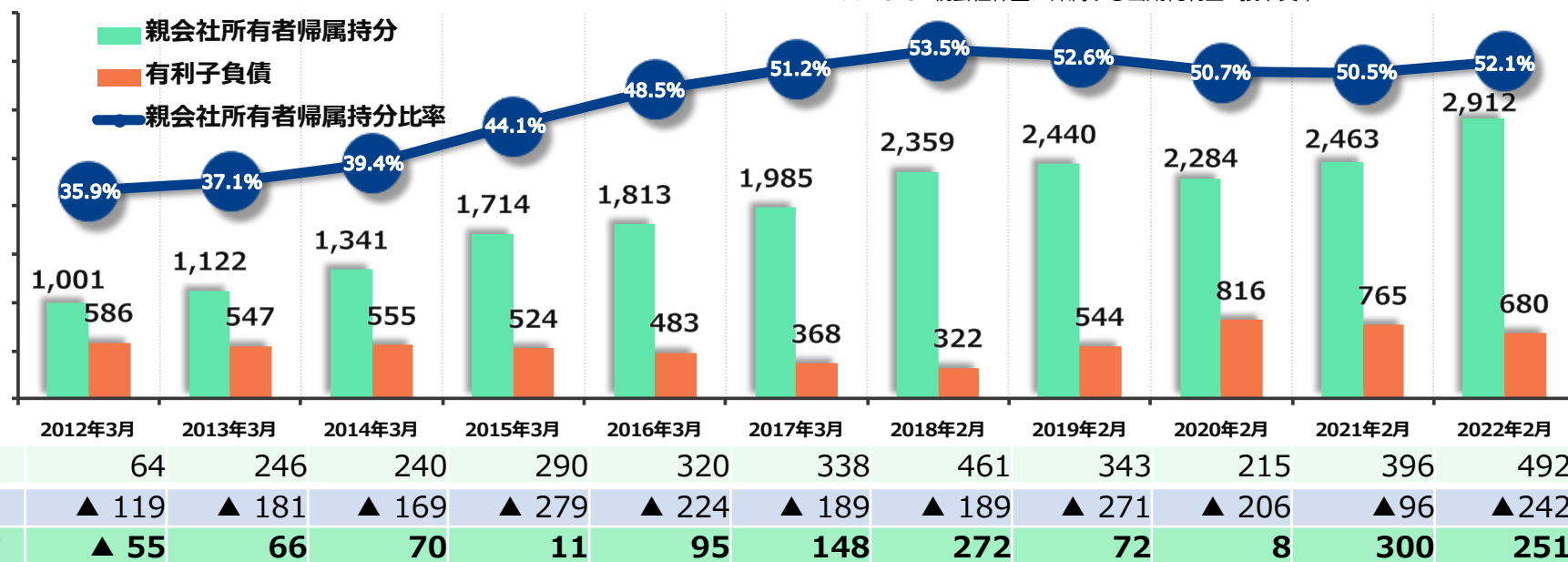
- 親会社所有者帰属持分比率 52.1%
- 親会社所有者帰属持分 2,912億円
- 有利子負債 680億円
- D/Eレシオ 0.23
(ネットD/Eレシオ) 0.04
- 棚卸資産 1,318億円
(回転月数) (3.3ヶ月)
- ROE 14.3%
- ROIC 13.3%

2022年5月31日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 50.0%
- 親会社所有者帰属持分 3,044億円
- 有利子負債 973億円
- D/Eレシオ 0.32
(ネットD/Eレシオ) 0.06
- 棚卸資産 1,499億円
(回転月数) (3.7ヶ月)

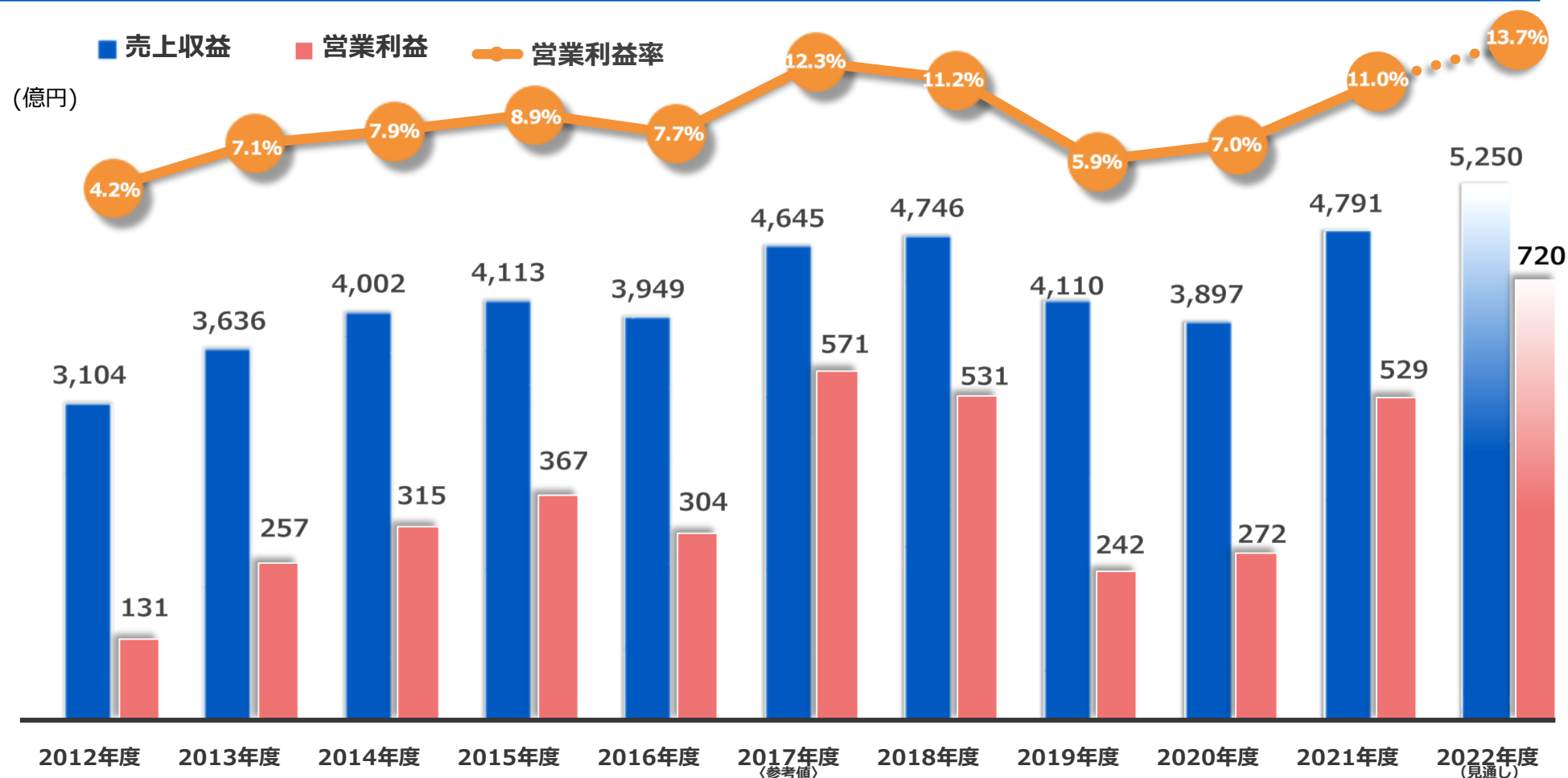
※ 有利子負債はリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用
 ※ ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷((前期末自己資本+当期末自己資本)÷2)
 ※ ROIC=親会社株主に帰属する当期純利益÷投下資本

(億円)



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載しています

売上収益・営業利益推移（2012年度～2022年度見通し）



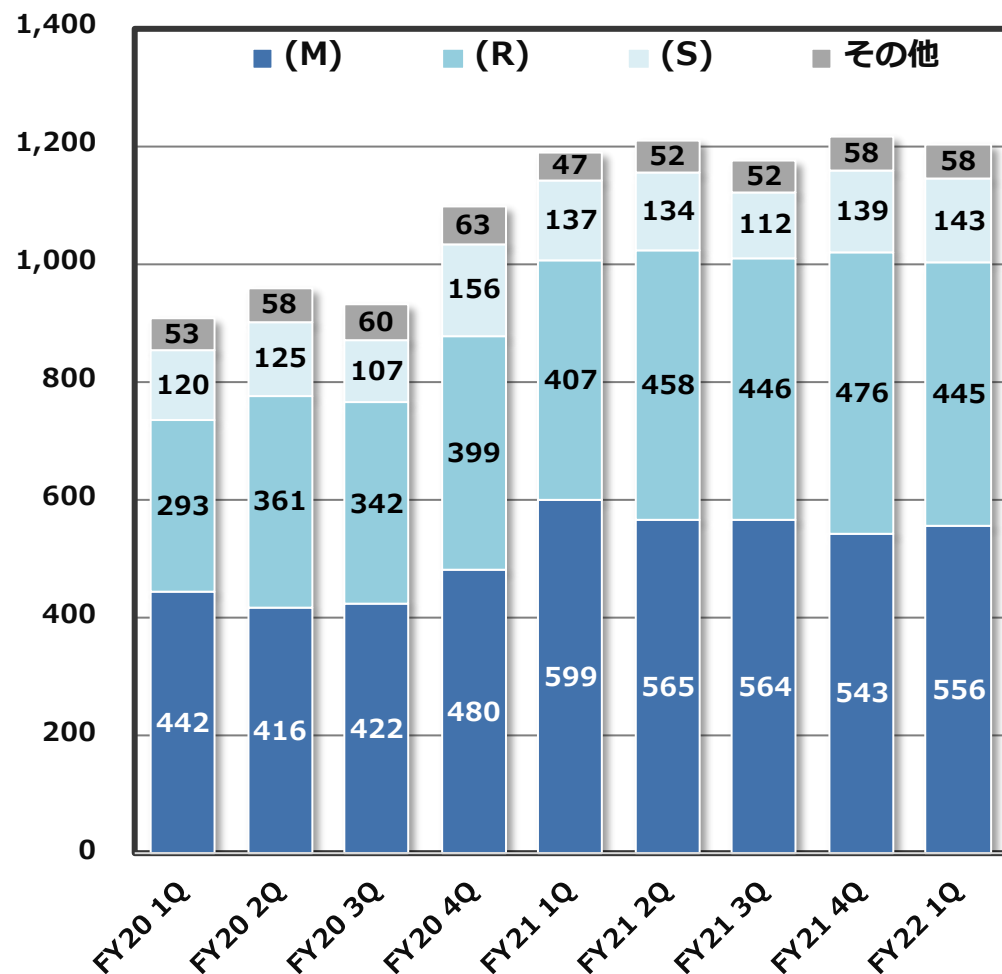
[注1.] 2017年度までのデータは日本基準にて記載しています

[注2.] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期売上収益推移

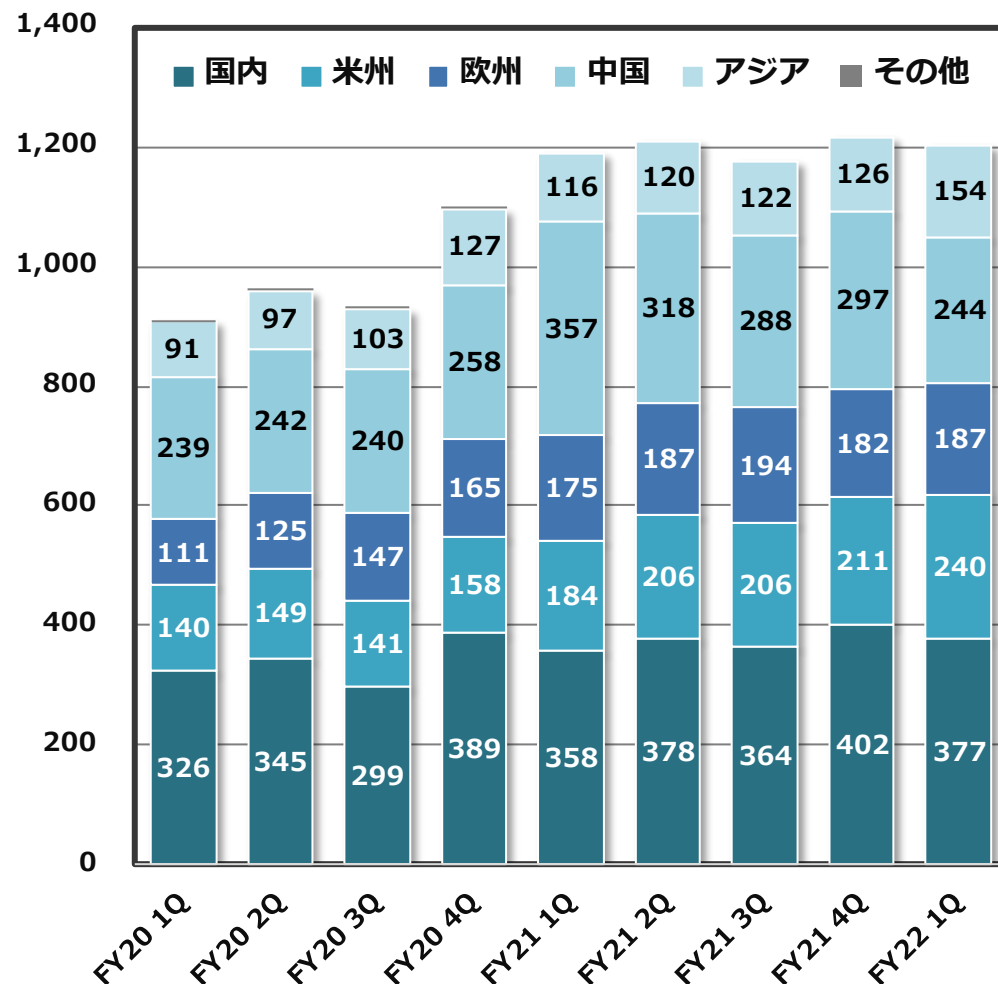
セグメント別

(億円)



所在地別

(億円)



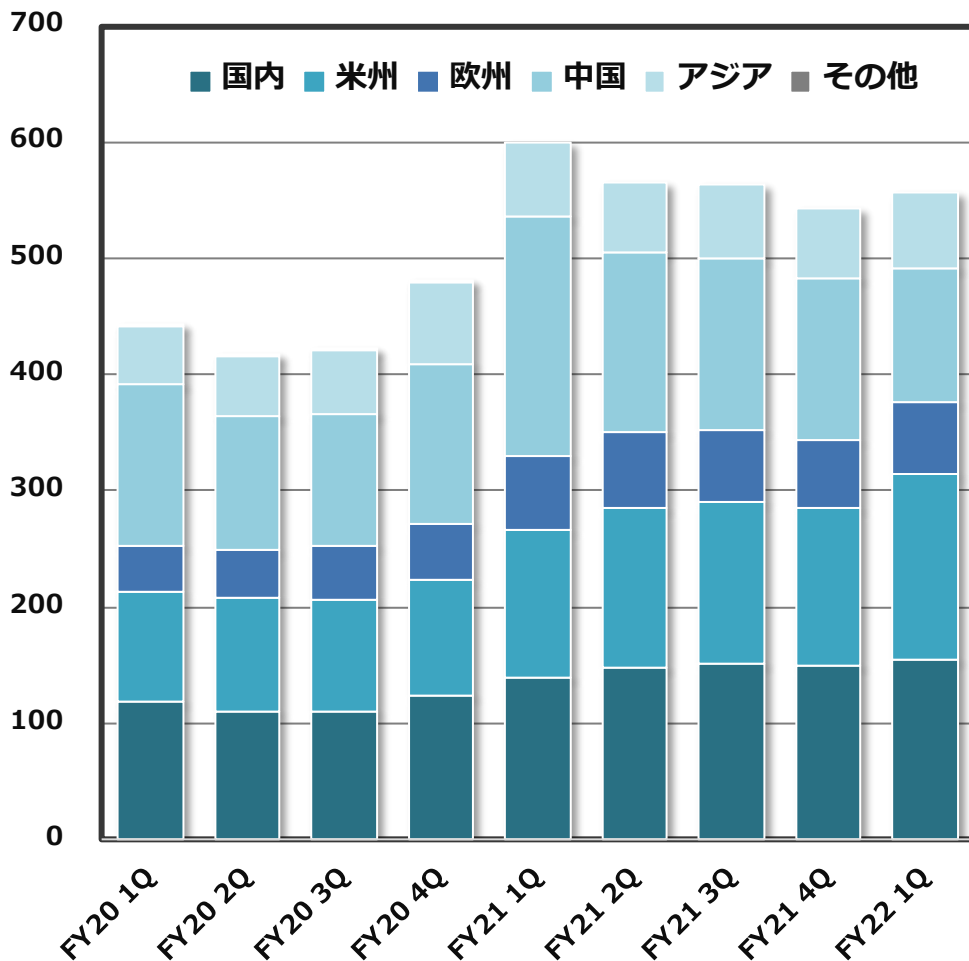
[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

[注.] 所在地別情報のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載しています

四半期売上収益推移

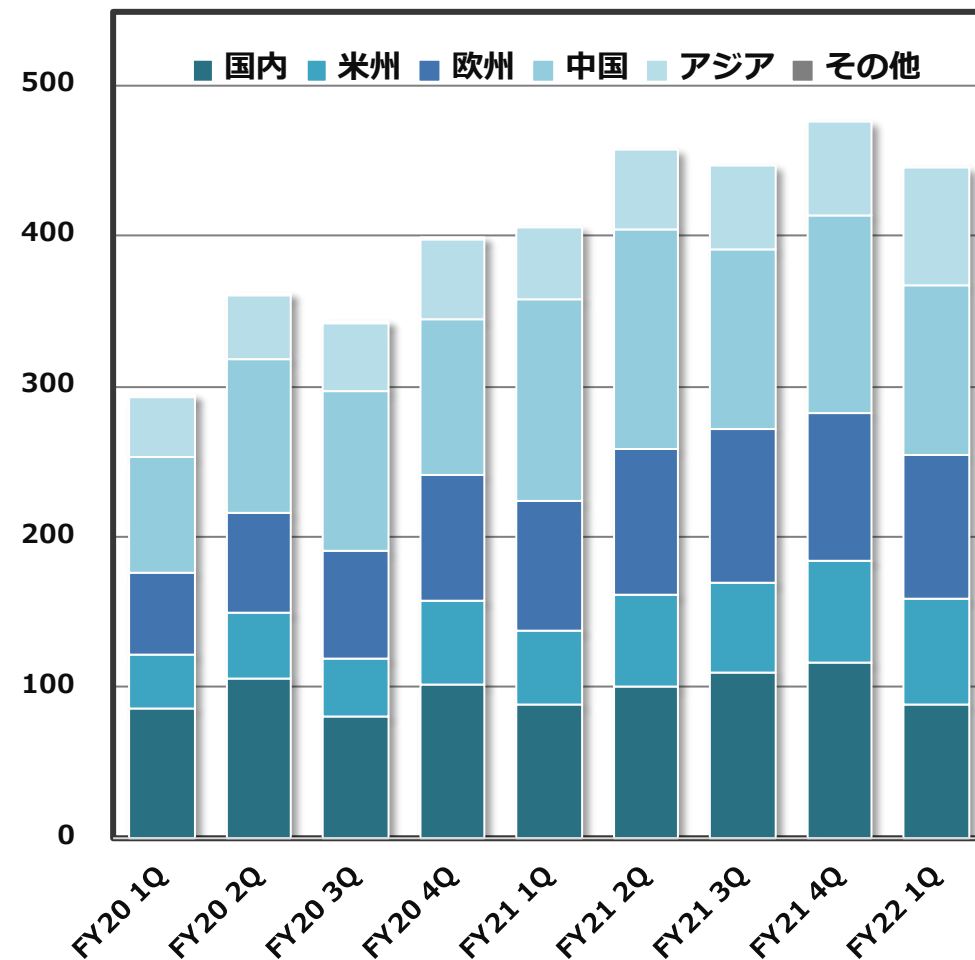
モーションコントロール

(億円)



ロボット

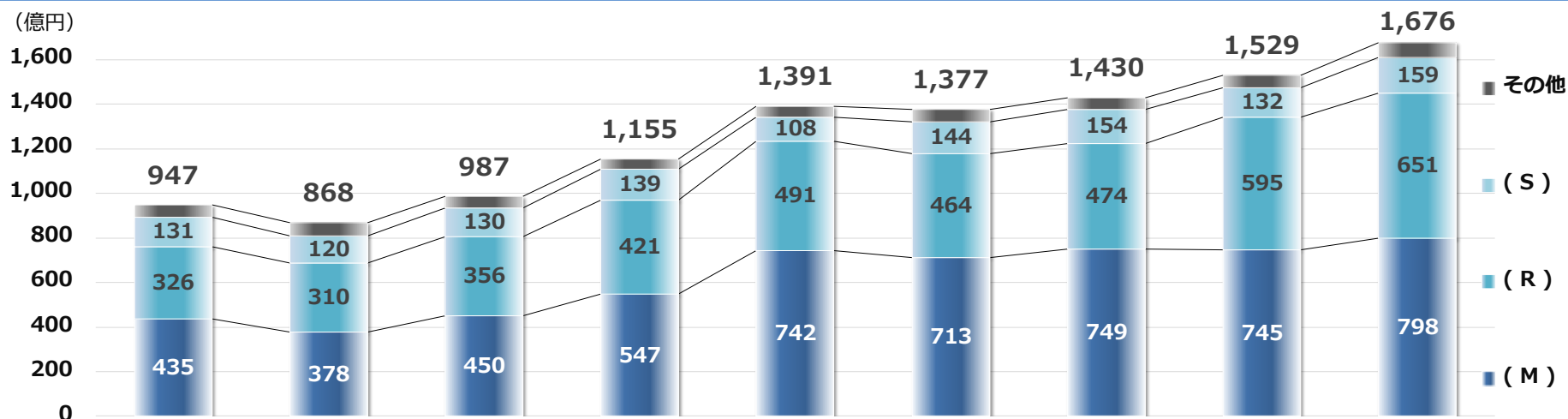
(億円)



[注.] 地域別売上収益のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載しています

四半期受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用

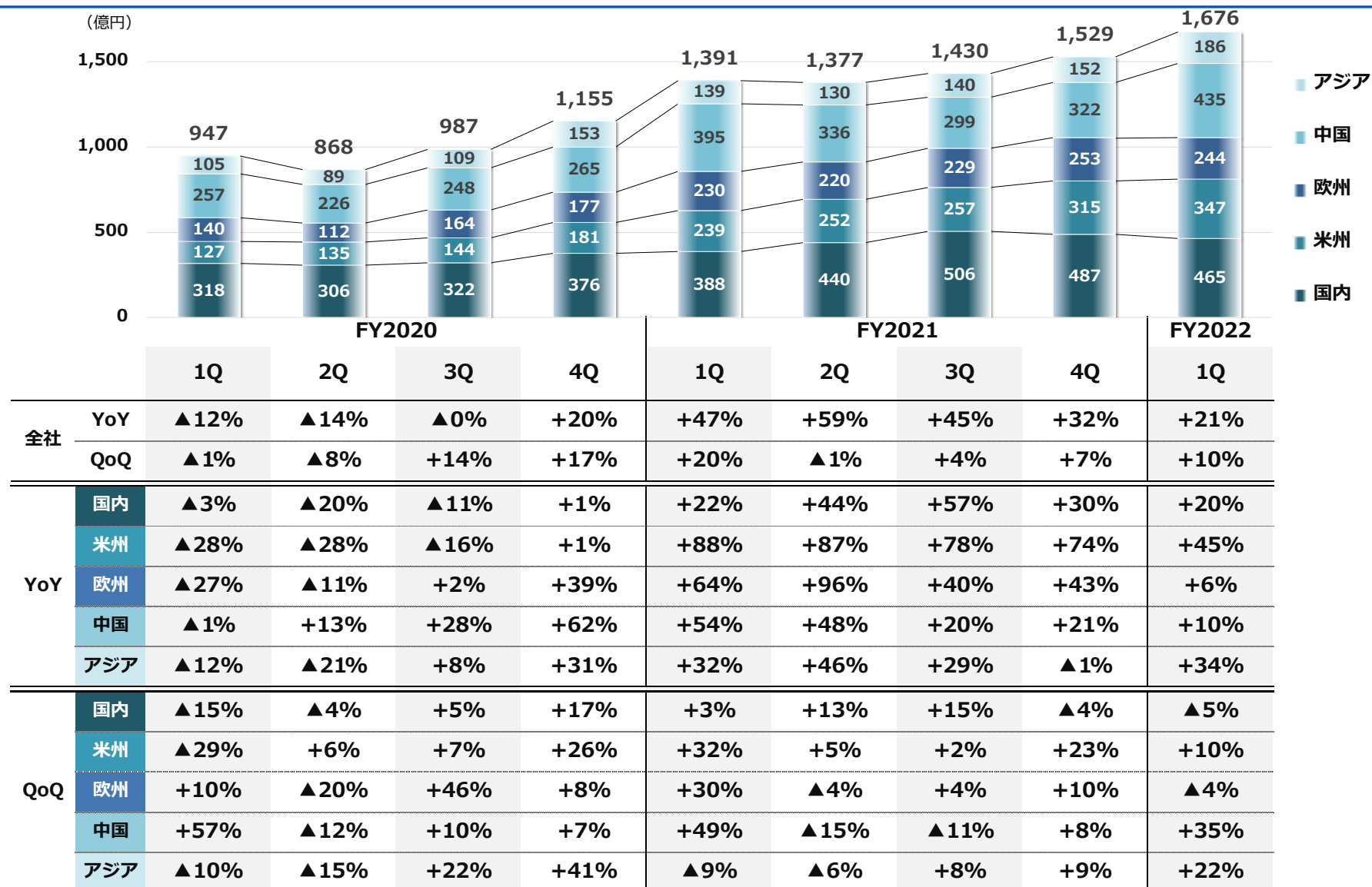


		FY2020				FY2021				FY2022
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
全社	YoY	▲12%	▲14%	▲0%	+20%	+47%	+59%	+45%	+32%	+21%
	QoQ	▲1%	▲8%	+14%	+17%	+20%	▲1%	+4%	+7%	+10%
YoY	(M)	▲8%	▲14%	+2%	+26%	+70%	+89%	+67%	+36%	+7%
	(R)	▲18%	▲16%	▲2%	+23%	+51%	+50%	+33%	+41%	+33%
	(S)	▲13%	▲14%	▲1%	+15%	▲18%	+20%	+18%	▲5%	+48%
QoQ	(M)	+0%	▲13%	+19%	+22%	+36%	▲4%	+5%	▲1%	+7%
	(R)	▲4%	▲5%	+15%	+18%	+17%	▲5%	+2%	+25%	+9%
	(S)	+8%	▲8%	+8%	+7%	▲23%	+34%	+6%	▲14%	+20%
為替 レート	円/ドル	107.6	106.8	105.2	104.3	109.0	110.1	112.5	114.6	124.2
	円/ユーロ	117.9	122.8	124.0	126.6	130.7	130.9	130.5	129.7	134.3

[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用



[注.] 地域別受注のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載しています

YASKAWA